

第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日 時 平成27年1月30日(金) 15:00~16:00

場 所 応接室(本庁舎2階)

出席者 委員長:知事 内堀 雅雄

委員:加藤 卓哉、菊池 信太郎、佐々木 孝司、蜂須賀 禮子、

本多 環、横田 純子、芳見 弘一 (敬称略)

事務局 企画調整課 課長 菅原晋也、主幹 加藤 靖宏

1 全体的な趣旨・テーマ・方向性

(1) テーマ・方向性等

- ・ 前に進んでいくというイメージで打ち出した方がよい。
- ・ ふたば未来学園の開校など、前向きな部分、「光」を盛り込んだメッセージとしたい。
- ・ 3月11日で震災から5年目に入ることから、潮目はやはり変わらざるを得ない。頑張るだけではなく、何かを生み出すようなものを書ければ。
- ・ 県外に散らばっている福島県関係者が、メッセージを見て福島県を思い出すような内容。
- ・ チームワークの「和」。各市町村長さんはよく「和」ということばをおっしゃられる。
- ・ 福島県は、少子高齢化など課題先進県。これに対し、みんなで英知とエネルギー、力を結集し、みんなで解決していきましょうというメッセージ。
- ・ 福島は、少子高齢化など、悪い意味で20年、30年先の未来を先取りしてしまっている。これらに立ち向かっていくという、一緒に頑張ろうというメッセージ。
- ・ 「直接、行ってみましたよ」という生きた、「生で見てこうやったよ」というリアルなものがあった方が良い。
- ・ なるべく、否定的な言葉を避けること。一番苦しんだ大熊や双葉のような方がいるんだということを心に秘めながら、メッセージを表明していく必要がある。

(2) 風評と風化

- ・ 「風評」と「風化」。両面ある。
- ・ 「風化」しないよう、はやり語り継がなければならないということ。
- ・ どんなに一生懸命がんばっても、不信感はなかなか消えない。

(3) 「光」と「影」のウェイト

- ・ 避難者を「影」としないでほしい。
- ・ 「光」と「影」のウェイトは、七対三くらい。
- ・ 子どもの現状という意味では、「影」しかない。そこに「光」が差し込む方法としては、子どもたちが「凄いな」とか、「いいな」とか、はしゃいでしまうくらい喜ぶようなことをすべき。「感動」というか、「希望」と「夢」。県民で良かったという思いをつくれると良い。
- ・ 全体的に「光」が良い。風評払拭のためにも、「福島県、頑張ってるな」、「明るいな」という前向きなメッセージ。しかし、被災されている方も忘れてませんというものを盛り込む。
- ・ 「光」の部分は間違いなく増していってはいる。我々大人が、子どもたちがこの後の社会を開いていくまで、それまで本当に頑張らなければならない。決して負の部分を忘れるわけではないが、あえて「光」を強調していきたい。
- ・ 最初に重い方を持ってきて、その後に「がんばって」という流れが一番ベスト。「影」の方は3割、2割くらいに抑えられた方がいい。そして良い方は、全体的に7割くらい。
- ・ 「光」と「影」は、両方混ざっているし、今日と明日は、割合は変わる。「影」の部分もしっかり押さえて認め合った上で、「じゃあ、ここからは前向きに進んでいこう」「みんなで頑張りましょう」という「光」の部分につなげてくメッセージがいい。

(4) 知事に求める言葉

- ・ 知事自身の力強い言葉がほしい。「僕はこういうところに挑戦していってもらいたい」というというような言葉があれば。
- ・ 知事として、福島県の皆さんのがんばっていけるような言葉を入れていただきたい。

2 今の姿、復興の現状

(1) 全体的なもの

- ・ 避難されている方々の心情はどのようなものかに配慮したい。

- ・ ふくしまで暮らす方々へのねぎらいが必要。
- ・ 他の都道府県等から支援がたくさん来ており、お礼を入れたい。

(2) 2015年らしさ

- ・ 2015年のメッセージらしさを盛り込んだ方が良い。
- ・ 後でこれを読み返した時を考え、2015年3月までに復興したことが入っていると、思い出せるし、進捗が見えてくる。

(3) 2015年らしい具体的な事例

- ・ 中間貯蔵施設、3月1日の常磐自動車道の全線開通、ふたば未来学園に学生が集まつたこと、全国新酒鑑評会で金賞受賞数が2年連続日本一、環境創造センター。
- ・ 知事が最も力を入れたい事業。まだ達成できなくても、今年はこれを目指すんだ、一番力を入れるんだと思われるもの。
- ・ 知事が変わったということ、震災5年目に入ること。但し、あまり、堅くしない。なるべく前に進めるような感じで。
- ・ 中間貯蔵施設はまだ完成していないので、もっと夢のあるものを。
- ・ ソフト面も入れてはどうか。この状況でもこういうことをやっているとか、全員でがんばっているといったことも入れてはどうか。

3 今後進むべき道・復興へ向けた決意等

(1) 全体的なもの

- ・ 子どもの現状を踏まえ、これから、福島の土地をどう守り育てていくのかを入れるべき。
- ・ 福島県の未来はこんなに素晴らしいところだという内容を盛り込みたい。

(2) 2015年は、何に挑戦・チャレンジするのか

- ・ 「自分」。前向きにいきたいが、まだ引きずっている部分がある。
- ・ 本当に子どものことを中心に考えること。
- ・ 笑顔があふれているまちづくり。
- ・ 「自己実現」。子どもたちが、「やりたい」、「やってみたい」、「行ってみたい」と思ったことを実行すること。皆様が自己実現に向かって、自己決定ができるよう。
- ・ 「ふるさとを創ること」。